

海王丸パーク周辺の活性化と富山県および射水市の観光に関する分析

Stimulation of Kaiomaru Park and Surroundings,
and Analysis of Tourism in Toyama Prefecture and Imizu-shi佐藤 勝 秀
SATO Katsuhide

射水市の海王丸パークは年間100万人以上の観光客が訪れるが、観光や経済に対するインパクトはそれほど大きくない。また北陸新幹線開業以降の観光客数の伸びも、兼六園に大きく差をつけられている。そして、その傾向は富山県全体の観光地、観光施設において同じなのである。本稿では海王丸パークの活性化に対する提案を考えつつ、富山県や射水市全体に関する観光の現状と問題点を分析する。

キーワード： 海王丸パーク、北陸新幹線開業、通過型、滞在型

1. はじめに

筆者は昨年4月に富山に赴任したが、当地の観光資源の豊富さには目を見張るものがあった。筆者は山岳観光をリードする長野県出身であるが、その長野と比較しても遜色のない立山黒部、天然の生簀として様々な魚介類の宝庫である富山湾など、予想をはるかに上回る自然、観光資源があることに驚いた。また、白川郷の陰に隠れがちな五箇山も、素朴な佇まいや民謡発祥の地であることなど、文化や歴史という点においても観光資源は豊富であると思われる。しかしながら、観光における全国的な知名度で富山はそれほど大きなインパクトを持たない。

先日も金沢で食事をする機会があったが、コシヒカリ、のどくろ、寒ブリ等、そこで供される食材は富山のものが多いことに気がつく。「富山県人は実直である」ということはよく耳にするところであるが、これは裏を返せば「商売が下手」ということにもつながろう。多くの観光資源や海の幸、山の幸を持ちながら、うまく発信できていない、北陸という魅力あふれる地に在りながら、観光における旨みは他県に取られてしまっているとの感想を筆者は持つに至った。

本稿では特に新幹線開業後の富山の観光の実態を調べ、どのようにアピールするべきかを考える。具体的には射水市からの募集であった「観光を通じて射水の活性化を図る」提案に関連して、数多くある富山の観光資源をどのように活かしてゆくべきかについて、射水市の海王丸パークを例にとりながら考察するものである。

2. 富山県の観光地・観光施設の観光客数の推移

表1は富山県内の観光地・観光施設の観光客数を表したものである。平成27年3月に北陸新幹線が開業したこともあり、多くが前年を上回る入込数となっている¹²⁾。

表1 観光地等入込数ランキング (延べ数)

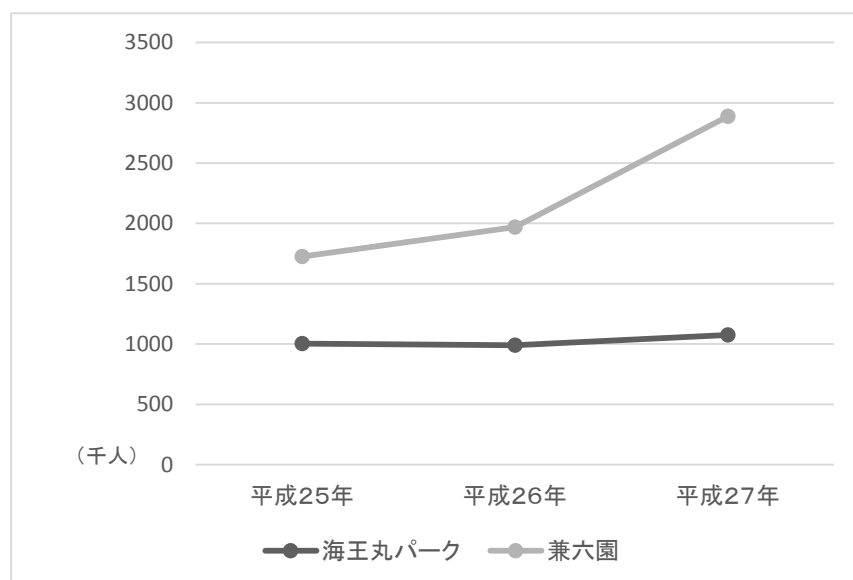
(単位：千人)

名称	市町村	27年観光客数	26年観光客数	対前年比
富岩運河環水公園	富山市	1,377	1,390	-0.9%
氷見漁港場外市場ひみ番屋街(総湯含む)	氷見市	1,239	1,147	8.0%
道の駅福光	南砺市	1,103	995	10.9%
海王丸パーク	射水市	1,075	990	8.6%
立山黒部アルペンルート	立山町	996	908	9.7%
高岡古城公園	高岡市	846	821	3.0%
五箇山	南砺市	794	707	12.3%
県民公園太閤山ランド	射水市	740	717	3.1%
道の駅カモンパーク新湊	射水市	718	708	1.3%
新湊きつときと市場	射水市	638	569	12.2%

(出典：「平成27年富山県観光客入込数」より筆者作成)

射水市の観光地・観光施設はベスト10のなかに3つもランクインしているが、観光で射水を連想することとは少ない。商売が上手でないと思われる富山のなかでも射水市はその典型といえる。

さて、北陸新幹線の開業で最も恩恵を受けたのは金沢であるという話はよく聞く。そこで金沢の代表的な観光地である兼六園と海王丸パークの観光客数の推移を比較したのがグラフ1である³⁾。



グラフ1 海王丸パーク、兼六園の観光客数の推移

(出典：富山県、石川県資料より筆者作成)

平成 25 年時における観光客の数は兼六園の 172 万人に対し海王丸パークは 100 万人とむしろ健闘しているといえる。ところが、北陸新幹線が開業した平成 27 年は兼六園が前年比 46.6%の増加であったのに対し、海王丸パークはわずか 8.6%に留まっている。表 1 より、富山県内の多くの観光地・観光施設で前年を上回っていることがわかるが、兼六園をはじめとする石川県の観光地と比較するとその増加率は小さい。

3. 射水市（海王丸パーク周辺）の観光地、観光施設の特徴

表 1 でわかるように、富山県の観光地、観光施設ランキングにおいて海王丸パークが立山黒部アルペンルートを抑えて 4 位にランキングされている。また、8,9,10 位には太閤山ランド、カモンパーク新湊、新湊きつときと市場がランクインしている。これらを総合的にみれば、富山県において射水市は豊富な観光資源に恵まれているといえる。ここで特に注目したいのはランキング 4 位の海王丸パークの周辺に 9 位の道の駅カモンパーク新湊、10 位の新湊きつときと市場が位置しているということである。しかも海王丸の近辺には新湊大橋、あいの風プロムナード、バードサンクチュアリ、映画「人生の約束」のロケ地などがあり、これらを組み合わせて総合的なプロモーションが可能であると思われる。

以下、各観光スポットについて簡単に解説する。

1) 海王丸

「海の貴婦人」の呼び名で親しまれている海王丸は、商船学校の練習船として誕生した帆船である。昭和 5 年 2 月 14 日に進水して以来、59 年余の間に 106 万里（地球約 50 周）を航海し、11,190 名もの海の若人を育てた。

2) 新湊大橋、あいの風プロムナード

富山新港に架かる日本海側最大の斜張橋で、上層は車道、下層は歩行者専用通路、あいの風プロムナードとなっており、湯（2015）によると、そこからの景観は海外からの観光客にも好評である⁴⁾。昼間は海王丸や立山連峰のコントラスト、夜にはライトアップされた姿が魅力的である。

3) バードサンクチュアリ（富山新港臨海野鳥園）

野鳥とのふれあいの場を提供するために造成された臨海部に位置する野鳥園であり、池・ヨシ原・樹林地など野鳥の生息に適した恵まれた環境に、四季を通しておよそ 150 種類の野鳥が記録されている。野鳥の観察はバード・マスターの野鳥解説を聞きながら、観察センター・観察小屋・観察壁のどこからでもその自然な姿を楽しむことができ、探鳥会や講演会も開催されている。

4) 「人生の約束」ロケ地

2016 年 1 月に公開された映画で射水市が舞台になった「絆」と「再生」のストーリーが心を揺さぶる。提灯山 13 基が勢ぞろいし、一斉に点灯したシーンは圧巻である。この作品のロケは海王丸パークから数百メートルの内川沿いで行われ、今でもロケ地案内の看板が設置されている。

5) 道の駅カモンパーク新湊

1998年に建設され、射水市ならではの特産品の販売、食事ができる。中でも「白えびかき揚げ井」はNHKの番組で人気投票全国1位になったほどである。

6) 新湊きつときと市場

新湊漁港で水揚げされた新鮮な魚介類が豊富に揃う。鮮魚センターのほか、レストランやお土産コーナーも充実。また、珍しいカニの昼セリを見学することもできる。

各観光地、観光施設の特徴をまとめたものが表2であるが、各観光施設によって得意な客層や訪問形態があることがわかる。

表2 海王丸パーク周辺の観光施設の特徴

観光地・観光施設	団体	個人	若者	年輩	集客力	収益性
海王丸パーク	◎	○	◎	○	◎	×
新湊大橋 あいの風プロムナード	×	○	◎	○	×	×
バードサンクチュアリ	×	○	△	△	×	×
「人生の約束」ロケ地	×	○	○	×	△	△
道の駅カモンパーク新湊	◎	○	○	○	◎	◎
新湊きつときと市場	◎	○	△	○	◎	◎

(出典：文献、聞き込み調査から筆者作成)

4. ツアーにおける海王丸パークの取扱いと現地調査からの現状分析

都市部（東京、名古屋、大阪）発着の北陸ツアーを調べ、海王丸パークがどのように組み込まれているのかを調べた。また、平成28年11月24日に海王丸パーク周辺の飲食店、土産物屋に対する聞き取り調査を行い、平成28年11月28日に射水市役所の観光課を訪問し、当市の観光の問題点をヒアリングした。以下はその結果をまとめたものである。

ツアーにおける海王丸パークの取扱い

- 前泊、当日の宿泊はいずれも富山市内や石川県になっており、射水市に宿泊するツアーは皆無であった。
- いずれも観光バスを利用した移動であり、海王丸パークの滞在時間は30分から40分のものでほとんどであった。

- 海王丸パーク内はすべてのツアーが自由散策としている。

現地調査、ヒアリングからわかった海王丸パークの現状

- 観光客はバスで来て、30分ばかりの滞在（自由散策）ですぐに帰ってしまう。
- 店は夕方、5時から5時半で閉められてしまう。
- 海王丸パークから新湊大橋は徒歩で10分以上かかり、見た目以上に遠い。
- 海王丸パークは観光客の数に比較して収益面で問題がある。

ツアーにおける射水市、海王丸パークの取扱いは明らかに通過型であることがわかった。しかしながら、これは射水市内の宿泊施設、客室数を考えるとやむを得ない状況であるといえる。特に射水市内のホテルのキャパシティは2施設60室と小さく、滞在型のツアーを射水市において組むことはほとんど不可能であろうと思われる（表3）。

表3 富山県内市町村別客室数ランキング

平成28年3月末現在

市町村名	ホテル		旅館		計	
	施設数	客室数	施設数	客室数	施設数	客室数
富山市	50	5,144	124	2,218	174	7,362
高岡市	10	975	31	674	41	1,649
魚津市	11	766	9	323	20	1,089
黒部市	2	64	34	1,024	36	1,088
砺波市	3	434	13	246	16	680
南砺市	3	73	34	416	37	489
立山町	2	147	13	260	15	407
射水市	2	60	10	169	12	229
朝日町	0	0	17	224	17	224

（出典：富山県観光課資料より筆者作成）

射水市の観光促進を考えるうえで、本来ならば滞在型のツアーコースの誘致を目指すところであるが、宿泊施設の充実が伴わない現状では有効とはいえない。そこで、同じ通過型でも収益を伴うような観光エリアの構築が肝要だと思われる。

現在の海王丸パークは観光バスでの団体客が主流で、しかも滞在時間は非常に短い。これでは飲食店や土産物の購入も限られると考えられる。また、「恋人の聖地」と謳い、新湊大橋は夜間にライトアップされ、レストランにはそれがよく見えるカップルシートまで用意されているにもかかわらず、そのレストランの営業は5時に終了するという現実がある。

海王丸パークから徒歩10分ほどの場所に新湊大橋があり、上層は車、下層は人が歩行できる構造になっている。そこから雄大な立山連峰、手前に富山湾が望める。このあいの風プロムナードの認知

度は低く、実際にそこを歩いたことのあるゼミ生は皆無であった。また、この徒歩10分という距離も駐車場からはさらに遠くなり、ロードブロックとなっている。

5. 考察

5.1. 海王丸パークの問題点とその対応策

これらの分析から、海王丸パークの問題点を以下のようにまとめることができる。

- 1) 団体客が大型バスで乗りつけるため、訪問客数は多いが個々の滞在時間は非常に短く、収益につながっていない。
- 2) 夜間ライトアップ、恋人の聖地など若者向けのコンテンツを備えていながら、飲食店の営業時間が短いなど、受け入れ態勢が整っていない。
- 3) 海王丸、新湊大橋、立山連峰という絶好の被写体が揃っているが、写真愛好家向けのプロモーションが十分でない。

これらの問題点を考えると、現在の団体客中心の集客から脱却する必要があると考えられる。バスツアーの団体客は海王丸パークで自由散策をした後、きつときと市場に向かうのが定番である。この客層は海王丸パークでの消費こそ少ないが、きつときと市場でのショッピングなどで一定の経済効果も見込まれ、海王丸パークの認知度向上に役立っていると考えられる。

ここで考えていきたいのは、さらに大きなポテンシャルを持つと考えられ、優良なコンテンツを活かしきっていないと考えられるカップル、若者層、写真愛好家へのアピールである。

5.2. 海王丸パーク周辺の観光促進に関する提案と効果

このような現状を踏まえ、海王丸パーク周辺の観光を促進するために、以下の2点を提案する。

- 1) 無料の貸し出し自転車を置き、海王丸パークやその周辺の観光施設への移動を容易にする。
- 2) フォトコンテストや撮影会などのイベントを企画し、写真愛好家に優良コンテンツをアピールする。

1) 無料貸し出し自転車の効果

無料貸し出し自転車は若者層、カップルをターゲットとしたものである。現在も有料のレンタサイクルやサイクリングロードは存在しているが、自転車の台数は少なく、開示も十分でない。現地調査の限りにおいてはほとんど利用されていなかった。海王丸パークだけでもデートスポットにはなり得るのだろうが、無料の貸し出し自転車を数多く置くことで、さらに周辺の新湊大橋、あいの風プロムナード、さらに「人生の約束」ロケ地など若者やカップルの興味の対象となる観光施設が行動エリア内となり、相乗効果を生むと期待できる。さらに滞在時間が数時間から半日ほどに増え、海王丸パーク近辺での飲食などの経済効果が期待できる。また、需要が大きくなれば飲食店などの営業時間の延

長も考えられる。貸し出しに使う自転車はどこの自治体も放置自転車の処分には手を焼いているので、これを利用すれば無料の貸し出しも可能であると考えられる。

2) フォトコンテスト、撮影会の効果

写真愛好家の数は近年、目覚しく増えている。コンパクトデジタルカメラ、デジタル一眼レフの普及に伴い、年配のかたや若い女性が一眼レフカメラを携えて歩いている姿もよく見かける。デジタルカメラでは以前のような現像、引き伸ばし、焼付けという工程がなくなり、パソコンに取り込むだけで画像を見ることができると、時間もお金もかからなくなった効果も大きい。また、初心者向けのカメラ講座、撮影会なども人気である。

このような流れの中で海王丸を使ったフォトコンテストや撮影会を企画することで海王丸をアピールし、周辺の観光資源と併せて当地の観光をアピールしたい。海王丸、新湊大橋、富山湾の向こうの立山連峰を組み合わせた構図は四季折々に魅力があり、昼間のみならず夜間のライトアップの写真も上級者ならトライしたくなる場所である。そして、フォトコンテストではその作品を発表することで、さらに海王丸パーク近辺の魅力が波及するという効果も考えられる。

また、海王丸パークの隣にはバードサンクチュアリ（富山新港臨海野鳥園）がある。被写体としての野鳥も人気が高いことを考えれば、ここも併せてプロモーションすることで、さらなる相乗効果が期待できるだろう。

5.3. まとめ

平成 25 年の観光客数が金沢の兼六園が 172 万人であったのに対して海王丸パークは 100 万人であった。知名度から考えて海王丸パークが健闘しているとの感想を持ったが、これはバスツアーの参加者が大きな割合を占めているからではないかとの仮説を持つに至る。バスツアーの企画として大型バスが止めやすく、近くにきつときと市場というショッピングスポットがある海王丸パークはコースに組み込みやすいのである。兼六園が個人客、団体客、ツアー参加者などを満遍なく取り入れているのに対し、海王丸パークがバスツアー参加者、団体客中心であれば新幹線開通後の増加率の差にもある程度の説明がつく。

本稿では海王丸パークならびにその周辺観光の活性化を無料貸し自転車、フォトコンテスト・撮影会という二つの点から提案したが、いずれも個人客を想定したものであり、従来型であるバスツアーからの脱却を目指すものである。ターゲットは若者、カップル、写真愛好家などであるが、アクセスの問題や認知度から、最初は県内からの集客を目指すのが効果的であろうと思われる。事実、海王丸パーク周辺の観光資源について知らなかった学生も多かった。県内での知名度が上がれば海王丸パークの露出も増え、県外からの観光客も増えると考えられる。

6. おわりに

今回の研究では射水市の観光、海王丸パーク周辺の観光を調査・研究することから富山全体の観光の活性化を考察することを目的とした。射水市に関しては、宿泊施設の客室数の不足から滞在型観光の誘致は難しいが、通過型でも工夫次第で収益は上げられるのではないかとの結論に至った。また、富山県西部地区として射水・氷見・高岡・小矢部・南砺・砺波各市が連携して広域観光モデルコースを作成しており、新しい動きとして認められる。そういう広域として射水市を見るのであれば、宿泊を伴うモデルコースも可能であろう。

富山県としてのみならず、県西部の広域観光地域として射水市の意気込みを感じることはできたが、今回の聞き込み調査では現場のスタッフや観光に携わる者の意識がそこまで達していないと感じた。時間になれば営業を終える、新しい客の誘致にはあまり興味を示さないなど、現場から観光を盛り上げようという気持ちは、残念ながらあまり伝わってこなかった。逆に言えばこのような欲の無さが他県に先を越され、おいしいところを持っていかれる原因のひとつにもなっていると考えられる。

とはいえ、富山の観光資源の豊富さ、素晴らしさに変わりがあるわけではない。県や市、広域地区レベルの連携も見られる。あとは現場や民間レベルとの協調、連携が重要だと考えられる。日本各地で設置されつつある DMO などの強力なリーダーシップの登場に期待するか、現場のひとりひとりの意識改革に期待したいところである。

参考文献

- 1) 富山県、新・富山県観光振興戦略プラン 2016.3
- 2) 射水市、第2次射水市総合計画 観光の振興 2016.3 pp104-107
- 3) 石川県県民文化局県民交流課統計情報室、いしかわ統計指標ランド 2016.3
- 4) 湯 麗敏、富山観光への期待 ―中国人留学生・若者の事例を中心に―、富山国際大学現代社会学部紀要、Vol7, 2015.3 pp105-113